

令和7年度 第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和7年8月4日（月）13：00～17：00
開催場所	市庁舎 18F 会議室
出席者	（委員）小宮輝之委員、佐渡友陽一委員、関清美委員、藤崎晴彦委員、間曾さちこ委員
開催形態	非公開
議 題	1 令和7年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 2 その他の報告事項 3 横浜市立動物園等の指定管理者選定一次審査について 4 横浜市立動物園等の指定管理者選定二次審査について 5 横浜市立動物園等の指定管理候補者の決定について
議事	<p>【議題1】 令和7年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 承認</p> <p>【議題2】 その他の報告事項 動物園からの報告事項について説明</p> <p>【議題3】 横浜市立動物園等の指定管理者選定一次審査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々正味財産額が減少しており、主な原因としては、減価償却に伴う減であり、現金の流出はないという報告だった。安定的にかつ継続的に運営を行うことのできる基盤は有しているが、収益事業を含めても動物園事業は赤字のため、収益事業の増収を図り、収支の改善をしないと、正味財産が減少してしまう。 ・動物園の中長期的なビジョンやミッションは指定管理者の選定とは別に制定するべきと考えるがどうか。 事務局→大きな方針などは、動物園と話し合って固めていく必要があると考えている。 ・応募団体の役員の中に動物学の専門家がいなかったため、将来こうあるべきだというビジョンが出てこないことを危惧している。 ・一次審査結果について、了承ということによろしいか。 <p>承認</p> <p>【議題4】 横浜市立動物園等の指定管理者選定二次審査について 《応募団体 プレゼンテーション実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回提案されたビジョンやミッションを、次期指定管理期間中に更新する予定はあるか。

	<p>応募団体→今後の社会情勢等の変化によってはその都度見直す場面も出てくると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非正規職員の割合が多いと感じているが、これを維持するのか。 <p>応募団体→できる限り正規職員となるようにしてはいるが、人件費の兼ね合いもあり限界がある。非正規職員が多いと、技術継承や安全面の課題もあるため、職員をしっかりと育成していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物園の専門性の担保や、ビジョンやミッションがどのように実現されていくのか。 <p>応募団体→運営方針や実務について、動物園部長、動物園調整課長、野毛山動物園園長、金沢動物園園長、よこはま動物園副園長で議論を行っている。また、専門的な分野については、よこはま動物園長のアドバイスを基に議論を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募団体の役員に動物学の専門家がいないのはどうなのか。 <p>応募団体→よこはま動物園園長は専門知識がある人材を配置しており、経営に関する会議には参加している。さらに、理事会、評議員会といった外部の方々に意見を伺う機会を設けており、横浜市獣医師会の副会長、動物園友の会の元会長、日本動物園水族館協会の顧問が参加している。</p> <p>→野生動物の専門家がいないのは物足りないと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が悩んだときに相談できる部署を設置するなど、職員がきちんと守られる体制はできているか。 <p>応募団体→コンプライアンスを統括する部署は団体の総務部門が担当している。また、ハラスメント相談員を各動物園の男女の責任職を均等に配置しており、相談できるような体制づくりを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客プロモーションは3動物園全体を対象とするべきであるが、ズーラシアに設置すると、ズーラシアのプロモーション活動がメインになってしまうのではないか。 <p>応募団体→プロモーション課は3動物園の取組を集約して、3園の連携に繋げていくような役割を担う。マーケティング戦略の改善に向けて取り組んでいる内容は3動物園で一体となりながら進めているので、ズーラシアだけで行うことにはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来園者サービス向上のためのマーケティング調査の分析結果を受けた具体的な目標等を伺いたい。また、どの動物園というカテゴリだけでなく、学習施設やレクリエーション施設といったカテゴリで、動物園の価値をアピールしていくこともあり得ると思うが、どうか。 <p>応募団体→具体的な指標については、コンサルタントにもアドバイスをもらいながら検討中。珍しい動物を見たいという需要に応えることに加え、動物園の役割であるレクリエーションや教育普及などの提供など、総合的にアプローチし、3園の特徴を踏まえたアピールに繋げていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチできていないターゲット層を掘り起こすための方策はあるか。 <p>応募団体→野毛山動物園では、子育て世代全体に重きを置いて、インターネットの技術等の活用を検討している。</p> <p>ズーラシアでは、時間と金銭的な余裕があるが、まだ来園したことがない大人のお客様に向けて、どのようにアプローチしていくか検討している。</p> <p>金沢動物園では、公園の豊かな自然と動物園の飼育部分を連携させて伸ばしてい</p>
--	--

	<p>こうと思っている。また、寄付制度を見直して、来園しなくても動物園を応援できるような仕組みにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園者数を増やす取組は検討しているか。 <p>応募団体→団体の集客をより強化していきたい。3園がどういう動物園なのか、何が体験できるのかということを絞り込んで効果的にアプローチする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニマルペアレントを軸としたドナーピラミッドの説明があったが、ファンドレイジングを誰がどのように進めていくのか。 <p>応募団体→アニマルペアレントについては、各園で引き続き進めていき、チラシを配布するなど広報活動を行っている。企業協賛については設定金額を下げた協賛メニューを増やして寄付しやすいように取り組んでいる。また、ファンドレイザーの資格者を交えながら検討を進めており、アニマルペアレント継続者に次のステップとして増額、いずれは遺贈寄付と大口寄付者に繋げていきたい。</p> <p>→ドナーピラミッドを拡充するためには、顔の見える人間関係を続けることを前提に進めていただきたい。また、年間パスポートを持っている人とのコミュニケーションをどう図るのが課題だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育普及」と「動物と飼育管理」の項目の中に展示という概念が抜け落ちている。展示と環境教育等をどのように連携させていくのか。 <p>応募団体→ズーラシアは生息環境展示とその地域に住んでいる人々の文化を学んでいただくことをコンセプトにしているため、それを踏まえたプログラムをやってきたい。</p> <p>野毛山動物園では、どうやって子供たちに保全教育に繋がるような展示ができるのかを具体的に検討している。</p> <p>金沢動物園では、円海山に暮らしている身近な生き物の展示を通して表現していきたい。</p> <p>→環境教育というテーマを立てたからには、人を育て行動変容をさせていくという戦略性を期待したい。</p> <p>【議題5】</p> <p>横浜市立動物園等の指定管理候補者の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的な審査結果の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・非公募選定のため、1団体のみの応募 ・一次審査 156点、二次審査 69.2点、合計 225.2点となり、300点満点の 75.1%であり、審査基準の 60%を上回った。 ・応募団体を指定管理候補者に決定してよろしいか。 <p>承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のオペレーションは蓄積があり、仕様書に対しても必要最小限の対応は整っているが、十分な資金がないことで非正規職員に頼る部分が大い、トップマネジメントのレベルで動
--	---

	<p>物園の専門性が少し不足しているという面もある。今回の提案内容が完璧ということではないため、これからどうしていくのかということを、引き続き、市と密にコミュニケーションを取り、運転しながらブラッシュアップしていくことが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人からは意欲や熱意を感じるが、全体で収益を上げることには、公益法人の制度上の限界もあるように感じた。 ・今は正規職員と非正規職員のバランスが良くないと感じるが、10年後にはそういうことがなくなり、働く職員が正当な評価がされる場となっていてほしい。 ・10年後、20年後を見据えてマネジメントを行い、現場の運用につなげるという連携ができているのか気になった。ビジョンや理念は、バラバラに作られたものを1つにまとめた印象があったので、3園一体でそれができるのか。キュレーター的な人がしっかりコントロールしていく必要がある。 ・ズーラシアは唯一の大規模な地理学展示の成功例で、すごくいい動物園だと思っている。繁殖センターも日本でもトップクラスの施設。これらの施設を運営する団体には、これからの動物園を考えられる人がいなければいけない。10年後にはそうなっていてほしい。
配布資料	<p>資料1 第1回議事録</p> <p>資料2 一次審査結果一覧（事業計画書採点表）及び財務状況採点表</p> <p>資料3 二次審査の流れと審議内容について</p> <p>資料4 二次審査用採点表 委員採点結果集計表</p> <p>資料5 応募者プレゼンテーション参加者名簿</p>